

デジタルトランスフォーメーション時代に向けた日中関係の再構築

平成 29 年 10 月 31 日（火）、JISA 会議室にて、日中 IT セミナーが開催された。テーマを「デジタルトランスフォーメーション時代に向けた日中関係の再構築」とし、北京アウトソーシングサービス企業協会を中心とする中国ソフトウェア企業訪日ミッションの来日の機会に合わせて開催され、参加者は日中合わせて約 60 名。

開会挨拶として日本側からは JISA 大須賀 正之グローバルビジネス部会 部会長、中国側からは北京アウトソーシングサービス企業協会 鐘 明博 理事長より挨拶があった。

はじめに、日本側のスピーチとして（株）OFO Japan ビジネスデベロップメント ディレクター 日吉 良昭氏より、中国の北京発である、スマートフォンアプリを使用した「ポートレス」シェアサイクリング事業についての講演があった。実際のスマートフォン画面での操作説明なども交え、シェアリングエコノミーとスマートフォン技術を融合した先進的なビジネスモデルについての説明があった。



続いて、中国側のスピーチとしてパクテラ・テクノロジー・ジャパン（株） 代表取締役副社長 小早川 泰彦氏から「RPA・IoT(Smart factory)－Pactera の取り組みについて－」と題して講演があった。RPA（Robotic Process Automation）の日本の

製造業への導入事例とその効果、及び IoT を導入した工場（Smart Factory）の事例についての説明があった。



休憩後、2 回目の日本側のスピーチとして、ニュータッチイノベーション（株）執行役員／クレバアグリ（株）代表取締役兼 CEO 余 望氏から農業向けの IoT・AI 技術を活用した農業支援クラウドについての講演があった。人材不足問題が顕著化する農業領域において、若手農業従事者への VR を使った採集の教育や、農作業の自動化に挑戦し、「Made by Japan（日本で作られた野菜）」を売り出していくという課題解決型のビジネスモデルが紹介された。

その後 2 回目の中国側のスピーチとして「飲食業のクラウドサービスとビッグデータ」と題し、杭州迪火科技有限公司 常務副総裁 段 志龍氏より講演があった。QR コードを利用した注文・勘定サービスについての説明があり、人件費の削減や会員データの増加によるメリット等が紹介された。

講演終了後モデレータを大須賀氏、パネリストをこれまで講演した 4 名で、パネルディスカッションを行い、主に日中の文化の違いによる事業進出の難しさや事業スピード等が議論された。

パネルディスカッション後、4 名に対する質疑応答では、日中互いに両国へ進出した際のローカライズの問題等についての質問があった。



最後に、日中関係について意見交換するネットワーキングを開催し、本セミナーは幕を閉じた。

(JISA 国際部)